

名古屋大学

【N045 名古屋大学】

	名古屋大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工学部（第1年次:740） 大学院工学研究科（M:495 D:145） 大学院情報科学研究科（M:126 D:35） 大学院環境学研究科（M:137 D:64） 情報基盤センター
沿 革	昭和14（1939）年 名古屋帝国大学創設 昭和17（1942）年 名古屋帝国大学理工学部を理学部と工学部に改組 昭和24（1949）年 新制名古屋大学工学部設置 昭和28（1953）年 大学院工学研究科設置 昭和46（1971）年 大型計算機センター設置 平成13（2001）年 大学院環境学研究科設置 平成14（2002）年 改組により情報連携基盤センター設置 平成15（2003）年 大学院情報科学研究科設置 平成21（2009）年 改組により情報基盤センター設置 平成22（2010）年 情報基盤センターが共同利用・共同研究拠点に認定
設置目的等	<p>昭和14年、名古屋大学工学部の母体である名古屋帝国大学は、愛知県、名古屋市及び地元の産業界等の強い要請から、理科系の帝国大学として創設された。</p> <p>昭和17年、理工学部が理学部と工学部に改組された。</p> <p>新制国立大学の発足時には、名古屋帝国大学工学部は名古屋大学工学部として承継され、昭和28年に新制の大学院工学研究科が設置された。</p> <p>昭和46年、大型計算機を学内外の共同利用に供する目的で大型計算機センターが設置された。</p> <p>平成13年、理学・工学・人文社会科学に亘った幅広い学術領域を結集し、既存の枠組みを超えた大きな知の体系「環境学」を構築することを目指し、「環境学」の枠組みの中に個別問題を改めて位置付け総合的に解決していくことを目的に、環境学研究科が設置された。</p> <p>平成14年、大型計算機の共同利用のみならず、情報基盤整備と提供及び技術支援並びにこれらに関する研究を行う組織として、大型計算機センターが情報連携基盤センターに改組された。</p> <p>平成15年、名古屋大学の情報科学分野の教育研究を結集し、情報に</p>

	<p>関する総合的な教育研究体制を整備することで、我が国及び世界の情報化の発展に貢献することを目的に、情報科学研究科が設置された。</p> <p>平成21年、情報連携基盤センターに情報メディア教育センターを統合して、情報基盤センターが設置された。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>名古屋大学は、世界を代表するものづくり産業の集積地に位置する地の利を生かしたリサーチ・ユニバーシティとして、先導的な研究を実施し、我が国及び世界の技術・工学の発展に貢献してきている。また、産業界ならびにアカデミアでグローバルに活躍できる次世代リーダーの育成を目指し、基礎から応用までの幅広い知識と能力を涵養する教育を実践している。これらの教育・研究を通じて、社会貢献に取り組んでおり、その活動は、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多面的な学術研究活動と自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と創造力に富んだ「勇気ある知識人」を育てることを基本理念として、基礎科学の知識の上に立ち、次世代の「工学・技術」を創造する能力を有し、豊かな学識・専門性と、広い国際的な視野を併せもった先導的な研究者・技術者を育成する役割を果たす。 ○ 学問的・人的交流を促すことを目的とした「領域専攻群」と「複合専攻群」からなる大学院システムなどの特色ある教育を進めてきた実績を生かし、国際的水準を踏まえた教育改革を進め、グローバルに活躍できる工学系人材を育成する学部・大学院教育を目指す。 ○ 半導体工学、マイクロ・ナノメカトロニクス、材料化学、低温プラズマ科学等をはじめとする、工学の多くの分野における高い研究実績を生かし、あらゆる分野で世界トップを目指す最先端の研究を一層推進する。 ○ 材料科学を推進する部局間の連携を強め、材料科学研究を先鋭化させる。また、ネットワーク型共同利用拠点として大規模データを使った数値シミュレーションと可視化の研究を推進する。 ○ 省エネ発光により社会イノベーションを起こした青色発光ダイオード発明に係る基盤研究・産学連携研究をはじめ、受託研究・共同研究の高い実績を生かし、我が国の産業を支える実践的な研究等の取組を一層推進する。

- | | |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <ul style="list-style-type: none">○ 化学、物理学、自動車工学などの分野に、全ての授業を英語で受講できるプログラムを設置するなどの取り組みにより、グローバル化に対応した国際教育を更に発展させる。特に自動車工学分野においては、上記プログラムとは別にサマープログラムを設け、留学生を中心に工学固有の先端教育を推進する。
○ 大学院への社会人受け入れ促進や社会人向けリーダー養成講座、技術者向け講習会等の積極的開講・提供などを通じて産学連携教育を推進させ、併せて産業界の高度化・活性化に貢献する。 |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|